

SENAインターコム軌跡 10年の進化に迫る!

日本にバイク用Bluetooth・インターコムが上陸して15年あまり
そして、オーディオマルチタスクをはじめ、当時画期的な機能を搭載した「20S」が登場してから10年
その後、SENAメッシュを採用したモデルが増え、高音質のクワンタムシリーズが増えるなど
SENAインターコムは10年という時間の中で、あらゆる面で大きな進化を遂げている!

文/八百山ゆーすけ 問:セナBluetoothジャパン <https://senablueooth.jp>

「最大8人でのグループ通話」「音楽やナビ音声聞きながらのインターコム通話」「アプリでインターコムが操作できる」などなど、2014年のデビュー当時、業界に大きなインパクトを与えたセナのBluetooth・インターコム「20S」。発売が2014年のことだから、デビューから数えて10年を迎える。当時、いち早く20Sを手に入れ、今も大事に使っているライダーも少なくないことだろう。ただ、この10年でバイク用インターコムは大きく進化している。

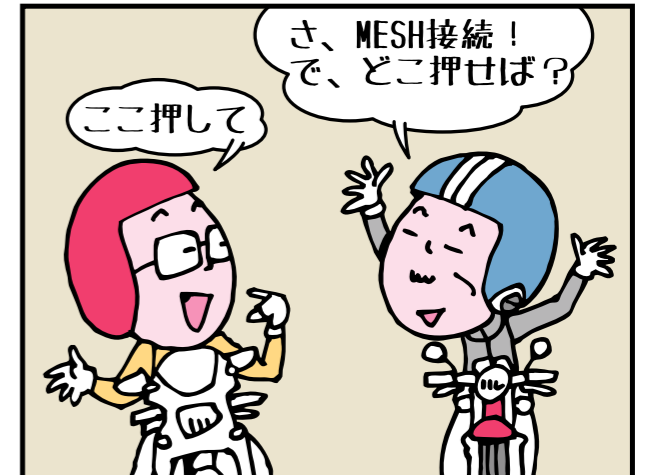
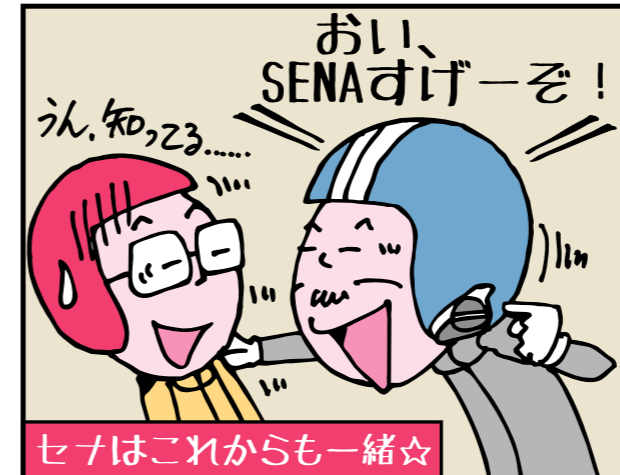
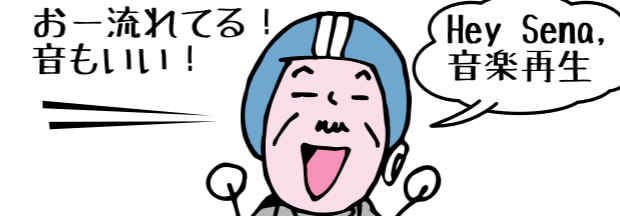
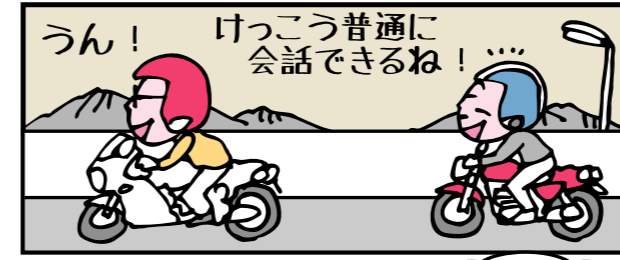
セナ・インターコムの最高峰モデルのひとつである「50S」。グループ通話はメッシュ・テクノロジーによって、最大通話人数は無制限。さらに、Bluetooth・メッシュは欠かせない「ペアリング」という事前の接続操作は不要で、ボタンひとつ押しで周囲のセナ・メッシュ対応インターコムとつながる。また一度接続が切れても、通信圏内に入れば、操作なしで自動的にグループに再接続されるのだ。

また「音」の進化も大きい。「クワンタムシリーズ」のインターコムは、世界的な音響機器ブランド「ハーマン&カーソン」の手によるサウンドチューニングが施され

Model	20S	10年	50S
価格			5万820円
通話距離			約2.0km (Bluetooth) 約2.0km (Mesh)
特徴			現フラッグシップである「クワンタムシリーズ」の一台。SENA MESHという通信方法に加え、Bluetooth接続も可能な万能型
インターコム接続	最初にメンバー全員を鎖のように順番に接続する「ペアリング」操作が必要。鎖の途中のメンバーが通信圏外になると、グループ通話が切断してしまう	→	通信経路がメッシュ=網目状なので、メンバーが抜けても原則として通話は切れない。接続はボタンひとつ押しでグループに参加でき、再接続は操作なしで自動
ペアリング	1台ずつペアリング登録	→	ペアリング不要
通話人数	8人まで	→	人数無制限
風切り音への対処	電子的にノイズをカット。ただし風切り音がある中ではなるべく大きめの音量にして通話することがオススメ	→	Harman&Kardonにより設計されたマイクセンサーにより、走行中の風切り音や走行音などの環境音をカット。相手は声だけが聞こえるのでさらに快適
マイク	マイクはノイズ対策のために指向性が与えられているため、キチンとマイクを口に向ける必要がある。ブームマイクは次第に向きがズレてしまっていることも	→	無指向性のマイクを採用しているため、おおよそ口元にマイクが向いていればいい。取り付けの自由度が高く、クワンタムシリーズのマイクはさらに高音質に
スピーカー	SENA標準スピーカーを採用。ただし、高速走行時は風切り音対策として、音量を上げたほうがベター	→	専用イコライザーにより、音楽の音質だけでなく、インターコム通話重視、オーディオ音楽重視などスタイルに合わせた調整も可能に
ファームウェア	USBケーブルをPCに接続し、PC上にインストールした専用ソフトウェアでアップデート。インターコムの言語の切り替えもファームウェアで行う	→	同梱のWi-Fiアダプターケーブルを自宅のWi-Fiに接続設定しておけば、充電中に自動で最新のファームウェアにアップデートできる
Siri起動	走行中にフォンボタンをタップ	→	マイクに「Hey Siri」と話しかけるとSiriが起動
ボイスコマンド	英語のみ	→	日本語対応
スマホアプリ	Sena Utilityというアプリで、グループペアリング設定、FM設定、機器設定が可能。音声言語の切り替えは不可	→	Sena Motorcycles Appというアプリで、インターコムペアリング設定や操作などがリモコンのように可能。言語切り替え設定やほぼすべての設定がアプリ内で行える

もちろん、20Sから採用された、音楽やナビ音声聞きながらのインターコム会話ができる「オーディオマルチタスク」機能や、自分の声以外の騒音をカットして相手に送るノイズ削減機能も搭載。さらに、インターコムの操作はボタンだけでなく、自分の声で指示が可能に。日本語で操作ができることに加え、iPhoneのSiriを呼び出すことだってできる。

このように、最新のセナ・インターコムには、ここ10年の目覚ましいデジタル技術の進化がぎっしりと詰め込まれている。これまで20Sをはじめとしたセナ・インターコムを使っていたユーザーには、こうした10年の進化をぜひ試してみてほしい。きっと、ツーリングの時間が格段とグレードアップするはずだ。そして、これから初めてインターコムを使うというライダーにとっては、こうした最新のセナ・インターコムを使いこなすことで、新しいバイクライフが見つけられることだろう。



10年使った20Sから、今回50Sに変えたAさん